

メットリスツク



Ann Nduku ✎
Wiehan de Jager 📧
kiki! 📄
3 ||
日本語 🗨️ ja



Global Storybooks

globalstorybooks.net

メットリスツク

Ann Nduku ✎
Wiehan de Jager 📧
kiki! 📄



This work is licensed under a Creative Commons
[Attribution 3.0 International License.](https://creativecommons.org/licenses/by/3.0)
<https://creativecommons.org/licenses/by/3.0>





昔むかしある所に仲よしのメンドリとワシがいました。メンドリとワシは他の鳥達とも仲よしでしたが、どの鳥も飛ぶことは出来ませんでした。

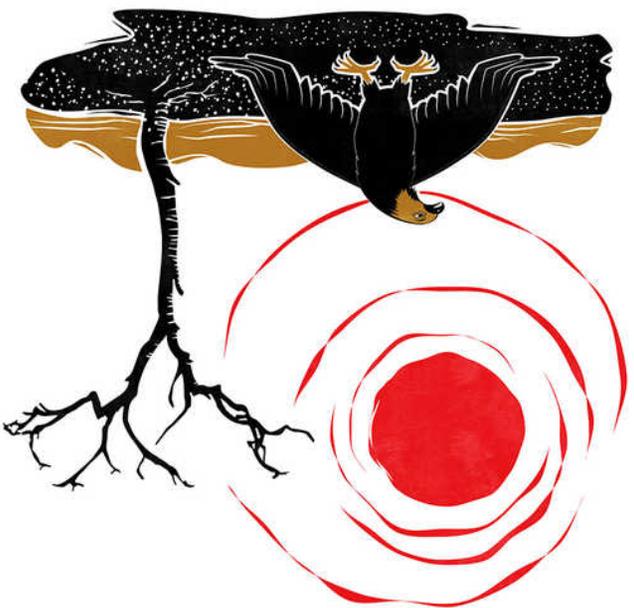


ワシの翼の影が地に映るたびに、メンドリは雛に「さあ、荒野から出て行って! 」と言うようになりました。そして雛達はこう答えるのです。「間抜けじゃないから、走って逃げるよ。」

次の日ワシがメソフリの所に行くと、メソフリは砂を掻いている所を見つけた。しかし、針は見つからなかった。そこでワシは素早く下降し、一匹雛をわしづかむと持ち去っていきました。それからというものワシが表れる度に、針を見つけたため砂を掻いているメソフリを見かけるようになったということです。



ある日この地に飢饉が襲いました。このためワシは食べ物を探しに遠くまで歩かねばならなくなり、クタクタになって戻ってくるのです。「食べ物を探しに行くのに簡単な方法があるはずだ！」とワシは言いました。



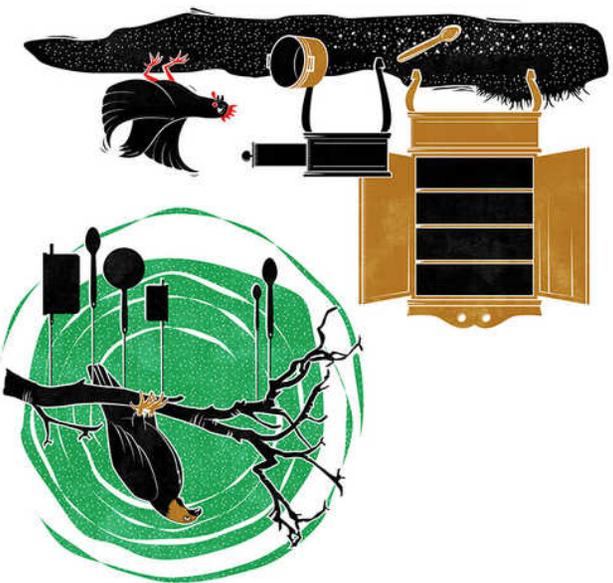


一晩明けメンドリは素晴らしい考えを
思いつき、他の鳥の抜け落ちた羽を集
めてこう言いました。「抜け落ちた羽
を自分の羽に縫い付ければ、食べ物探
しがたやすくなるだろう。」



メンドリはワシに「一日時間をくださ
い。そうすれば翼を直し、また食べ物
探しに飛ぶことができるでしょう」と
お願いをしました。「一日だけだ。針
が見つからなかったら、その代わりに
雛の内一匹をいただくからな」とワシ
は答えました。

その日の午後遅く、ワジは戻るなりメ
ソドリに、「食へ物探して緩んでし
まった羽を直したいから、針を使った
い」と言いました。メソドリは戸棚
を、台所を、そして庭を探しました
が、針はどこにも見当たりませんでし
た。



ワジはその集落で唯一針を持っており
ましたので、初めに縫うことになりま
した。ワジは美しい翼を一組自身に飾
り付けるよ、空高く飛んでいきまし
た。メソドリは針を借りたものので、
縫うのに飽きてしまいましたので、戸
棚に針を置き、雛達に食へ物を用意す
るために台所へと向かいました。





一方他の鳥達はワシが飛んでいるのを見て、メンドリに「ワシと同じく翼をこしらえたいから、針を貸して欲しい」と頼みました。ほどなく空の至る所に飛ぶ鳥達を見かけるようになりました。



さて、最後の鳥が借りた針を返しにいくと、メンドリはそこにいませんでした。そこで、メンドリの雛達は針で遊び始めました。遊びに飽きると針を砂地のどこかに置いていってしまいました。